

地区目標

「美しい心、ロータリアンの矜持
～修養、友情、情熱、奉仕、平和、感動～」

クラブテーマ

「あなたのロータリーをみつけよう」

- ◆点鐘：半田 稔 会長
- ◆ロータリーソング：四つのテスト
- ◆司会：東海林仁 副 S.A.A.
- ◆会場：大沼デパート



ロータリー：
変化をもたらす

第**2809**回例会 平成30年**5月14**日(月)



会長挨拶

半田 稔 会長



商品と景品

最初に大事なご報告があります。次年度会長エレクト予定者の三澤裕一さんより、病気のため会長エレクトを辞退したいとの申し入れがありました。やむを得ないものとしてこれを受理し、次年度会長エレクト選任のため、本日臨時指名委員会を開催します。この結果は改めて報告します。

さて、今日は商品を買ったときの景品についてのお話です。商品を買って、それに付いている応募券を送ると旅行券やお肉が当たるとか、シールを集めて送るともれなくお皿がもらえるとか、そういった景品です。

消費者にとってはありがたいばかりのように思えますが、このような景品に付いての規制があります。「不当景品類及び不当表示防止法」という法律です。なぜ規制されるかというと、豪華な景品をプレゼントすることによって、質の低い商品や、割高な商品を買わされてしまうおそれがあるからです。商品販売は、品質と価格で勝負すべきであって、景品などでお客を釣ろうとすれば、健全な競争が守られない、という考えによります。

景品の上限

では、具体的にどのように規制されているかですが、当たり外れのある景品の場合は、原則商品代金の20倍まで(上限10万円)、景品の総額は売上予定総額の2%まで、となります。たとえば一袋200円のでん六豆を買えばモンテディオ山形の入場券が当たる、といった企画をする場合は、チケットの金額は4000円が上限になります。売上5000万円を予想していれば、景品総額は100万円までになります。

また、全員もれなく景品をもらえる場合は、原則商品代金の20%まで(ただし商品代金1000円未満の場合は200円まで)になります。今年1月にドコモで息子のスマホを購入したところ、お年玉として牛肉セットをもらったのですが、この範囲内ということになります。

なお、新製品のイメージを普及するなどの目的で、簡単なクイズに答えて応募するだけで豪華賞品が当たる企画が新聞広告に載っていることがあります。商品を買った人に限らず誰でも応募できる場合は、金額の制限はありません。

ところで、年賀はがきで景品が当たりますね。これについ

ては「お年玉付郵便葉書等に関する法律」という特別な法律があります。これによると、はがき料金の5000倍の景品が可能になっています。52円とすれば26万円の景品が可能ということですね。お年玉は豪華にできるということでしょうか。

幹事報告

五十嵐 信 幹事

●本日、山形グランドホテルで6時半から指名委員会を開催いたします。委員の方はよろしくご出席お願いいたします。

●米山功労者表彰があります。半田稔会長、米山功労賞第2回マルチプルです。武田元裕さんは8回のマルチプルです。

●本日は第2例会で、ネルソン君のおこづかいの日ですが、ネルソン君はお休みです。先週日曜日まで、3泊4日ディズニーランドと日光の研修に行き、全国大会に出席して、昨夜帰ってまいりました。今日は高校が休みということで、ネルソン君にも休みをあげました。次回、おこづかいを渡したいと思います。交換留学生には、お金を「研修費」としてお渡ししていますが、ネルソン君は私たちの子どもと同じなので「おこづかい」です。学校にも通わせています。実は高校の学費免除だということが最近分かりました。もう一つは、5年前に私が委員会に出席したときは、途中で帰る子の割合が30%でした。研修、交換留学生で来て、途中で帰ってしまうのは30%。向こうにせつかく送り出しても帰ってくるのが30%いたんです。今はほとんどいないんです。すごいなと思いましたが、これはやはりネットの発達なんだというのが分かりました。ネルソン君はネットがとても得意になったようです。ネルソン君はあと2カ月おりますので、皆さん、どうぞ可愛がってください。

ニコニコBOX

遠藤栄次郎さん／芸工大が山形で発展して頂き山形の名声が高まりますようお願い致します。

長澤裕二さん／根岸さんの来訪を歓迎してニコニコします。

佐藤章夫さん／私の町内に山形市健診センターが今日開所しました。門間会長のリーダーシップとご努力に敬意を表し、お祝い申し上げます。

武田元裕さん／皆様からご支援いただいている高橋源吉の原画「最上川・本合海」が芸工大修復センターにて、現在修復作業中です。どうかよろしく願い申し上げます。

芸工大街や村での展開

東北芸術工科大学 理事長
根岸 吉太郎 氏



映画監督、東北芸工大学長そして理事長

私は、大学を卒業してから日活に就職しまして、助監督として映画を勉強し始めました。そして映画監督としてお国からも評価されるようになって、10年ほど前に大学に映像学科を作ることになり、山形にまいりました。東日本大震災の時に見込まれて、7年間学長を務めさせていただいて、その間に産業界の方や、地域、地元の方とも非常に密接な関係を築かせていただいて、そういった流れで、昨年の10月から理事長という職を引き受けることになりました。普通、大学というところで教えていた者が経営側に移るといことは、滅多にないことですが、芸工大の場合は組合がなくて、教職員と経営陣が常に大学の責任、未来を考えている大学だと思いましたので、子どもに教え、また次なる時代をどうやって作っていくかを一緒に考えられると思ってお引き受けした次第です。そうした意味で芸工大がどういふことをこの地域でやっているのかを、町や村という面でお話をしようかと思っていました。

学生の就職

芸工大が考える地方の創生、再生は、皆さんも嫌というほど聞かされているかもしれないですが、人口減少と高齢化という時代の波が押し寄せています。それで山形県の試算によると、30年後の県内人口は4分の3まで減り続けて、約40の中山間地集落は消滅する可能性もあると県自身が試算している時代です。当然、山間地帯だけじゃなくて人口減少が町の空洞化、産業の衰退と結びついているのではないかという分析が進んでいる事態です。

それで、私たちがも学生を今、就職をさせるということが大学の大きな使命で、芸術大学、美術大学とはいえ、のほほんと卒業して絵を描いていればいいんだということは少しも思っていない、きちんと社会で役立つそれなりの人材を送り出したいと思っています。学生とそういった意味でもいろいろなことを話していますが、「どうなんだ、山形、残るか?」という話をするに「いや、やっぱり都会に出ていきたいんだ」と言う学生が圧倒的に多い。それはうちの大学だけではなく、山大にしてもその他でも。山形県、東北圏にある大学には総じてなんです、どうしてなのかという話をすると、やはり地域には魅力を今ひとつ感じないという答えが割と多く返ってきます。そういうことからここ何年か、自分たちにも魅力ある町とか村とか地域というものをどうしたら作れるのか、ずっと考えてきたわけです。

それで東日本大震災が起きた後に、アートとデザインの大学が一体この東北において、どういうふうに関与することができるんだ、なんか非常に芸術って無力だなという感覚と、その中でも一体どういうことができるんだらうということをやっと考え続けていたわけです。

アート・デザインと地域再生

「自分はこれを表現したいんだ」を勝手に表現するのではなく、基本的には人とコミュニケーションしたい、自分はこういうものを世の中に出して、それを通じて人と通じ合いたい、というのが本来アートの一番大きな基本なのだ私たちは思っています。そういった意味で、わけわからないものを出してくるのが芸術だと思われがちですが、美しく、なおかつ人がそれに共感できて、人の生活が豊かになるようなものを自分たちは送り出したいと思っているわけです。そうしたものを送り出すことによって、この東北の復興、復活というものの役に立てるのではないかと考えながら、自分たちにはどういうミッションがあるのかを言葉で言ってみようと思っていたのが、

「地域社会と共生し、地域の豊潤な土壌に育まれた精神・英知を次の新しい世界観へ結集させ、守り続け、次の世代に手渡す」ことです。自然豊かな人情味あふれるこの土地にその精神を閉じ込めるのではなく、新しく社会を、この東北から世界に向かって示していく、また同時に守り続けていく社会を築いていきたいと思っているわけです。それは一言で言うと、地方の「新しい豊かさ」ということだと思っています。地方に新しい豊かさを作ることを私たちはずっと考えています。

芸工大は肘折温泉街に毎年秋に新しい灯籠絵を描いて飾る活動を続けてきました。また、いろんな産業界の皆さんと、お酒のパッケージ、学校のシンボルマーク、産業界のマークも含めて、さまざまなことをやらせていただきました。

その中で最近自分たちが取り組んでいてこれが次の起爆剤になるんじゃないかと思ったこと4つをお話したいと用意してまいりました。1つはリノベーション。建築が出来上がってから時間が経ってくすんできた、ばけてきたものをもう1回新しくすることで、建てた時に蘇らせようと捉えがちなんですけれども、それはまた1つのリノベーションです。私たちが思っているリノベーションは、そのパッケージに新しい価値観を加えられないかということです。元通りの状態に戻すのではなく、その空間資源を新しい使い方で活用することによって新しい価値を生み出すということをしていきたいと思っているわけです。日本中で空き家や空きビルが増えてきて、地域活性の足を引っ張っているような状態があるわけです。それで新しい使い方をすることによって新しい産業につなげる新しいコミュニケーションを起こすことができないかを考えます。

山形には多くの蔵が残っていますけれど、そこをレストラン、美術館など、新しい蔵の再生というものにしばらく取り組んできました。それは非常に小さなことですが、点がいくつか連なって線になって時に町全体に新しい活気ができないかと考えています。最初に取り組んでいるのが「シネマ通り」です。書店を改装し、空いたたビルのリノベーション、市民から寄贈を受けた旧木村邸の石蔵を山形市の中心市街地活性化基本化計画、街なか観光の誘致施設としてオープンしました。

もう1つ七日町ではなく、紹介したいと思うのが、旧きらやか銀行の大江支店の再活用で、町づくりに取り組んでいます。地味な話かもしれませんが、リノベーションすることによって、ここを中心にまたその町自体が少し活性する方法に取り組んでいるわけです。

コミュニティーデザイン学科を新設

5年前にコミュニティーデザイン学科を立ち上げました。デザインとアートの大学ですけれども、デザインとは物のデザインをするということだけじゃなくて、その町をデザインするとか、考え方をデザインすること、少し進めていきたいと思って作った学科です。これは、その町を再生させるコミュニティーをもう1回作り上げることを考える学科で、なおかつその学科は、そこへ行って、その町の人たちに、その後ちゃんと続けていってもらおう。それから、ここを中心に新しい町を作ってもらおうというノウハウを、まずきちっと伝えることができる学生を作り、人を育てるノウハウを持った学生を育てることを考えています。

最近、山形大学医学部の新しい場所の中のサインを自分たちで計画して、きれいにしました。そういった意味で産業界や行政も含めて、この町の方たちとさまざまなことをやっていきたいと、山大の皆さんとも握手しております。

最後に文化財保存修復センターは、東京以北ではこの山形にしかなくて、石の鳥居などの保存、修復に特化した研究所を私たちは持っていて、善宝寺の五百羅漢像を修復しているところです。これは年間で12体のスピードで、25年の計画でご寄付をいただいてやっております。今日はほんの一部ですけども、こうやってお話できる機会をいただいで、本当にありがとうございます。産業界の皆さまともいろんな形で手を組めたらうれしいと思います。秋にはまた3度目の山形ビエンナーレを私どもの主催で開催させていただきますので、ぜひともお足をお運び願えれば幸いです。

<本日出席・修正出席>

	会員総数	出席会員数		会員総数	出席義務会員数	出席会員数	出席率
本日出席 (5/14)	100名	58名	修正出席 (4/23)	99名	87名	83名	95.40%
メイクアップされた会員	(山形南) 鈴木 隆一、小松 公博、武田 博文、晋道 純一、安部 弘行、三沢 大介						